



ポーポキの目標 2013年

今年のキーワード:「元気・genki」!

1. 『ポーポキ、平和ってなに色? ポーポキのピース・ブック 1』、『ポーポキ、友情ってなに色? ポーポキのピース・ブック 2』、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』の活用を通して、ポーポキの仲間を増やします!
2. 友だちのことをもっと知り、彼らから学び、そしてつながりをいっそう確かなものにします!
3. 被災地をはじめ、始めた活動を継続し、多くの人々とつながり、そして支え合います!
4. 周りの状況(身近な暴力、健康と平和など)に関心を持ち、旅行や体験についてお互いに報告し合い、継続的にとりあげます!
5. 周囲の人にもよろこびを提供し、みんなで喜びを分かち合います!

本年もよろしくお願いします!



ポーポキ化した蛇だよ!

Popoki's Hot News!



ポーポキの第2回目 ミニ平和映画祭！

ポーポキは、2013. 2. 2にポーポキのミニ平和映画祭を開催する予定です。映画を観て、お茶でも飲みながら話し合いませんか？お待ちしています。詳しくは本号のポーポキ通信7ページへ。



「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちのスザンカにゃんから、届いた平和：

☆ 毎朝の平和の瞬間 ☆

駅の駐輪場にて...

(駐輪場のスタッフの方) おっちゃん：おはようございま～す！

(自転車を置きに来る) スザンカ：おはようございます。

おっちゃん：今日も寒いやんな～

スザンカ：そうですね。私は大丈夫ですけど、外ですっと立ち続けて、寒くないですか？

おっちゃん：うん。いける。あなたみたいな子が来たら、おっちゃんはすぐ若くなるで～...

スザンカ：そうですね...(^_^) //

おっちゃん：でも、ホンマに寒いから気～つけや！行っていらっしゃい。

スザンカ：は～い。ありがとう～行ってきま～あ～す☆

...私にも日本では居場所がありましたね...(^_^)~~☆

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !



いつもご協力、ありがとうございます！

「ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅」
(エピック 2012)はお陰様で好評です。ぜひ広めていただきたいです！

＊神戸 YMCA でも販売していますよ！

本については、<http://popoki.cruisejapan.com/monogatari.html> をご参照ください。

ポーポキのところに届いたすてきな年賀状！



ポーポキの友だち、タイキにゃんからの年賀状です。

ポーポキの友だちのみなみなさんにも



阪神・淡路大震災(1995.1.17)をわすれない



二つの大震災 1.17 と 2011.3.11 手を合わせて合掌



左:神戸市役所から 1.17 と 3.11 のろうそくを見おろす

右:会場となっている神戸市東遊園地は海拔4.6メートル。

上の看板は東日本大震災の津波の高さ(10メートル)。

防災の準備はできていますか。



ポーポキ友情物語の布は、
今年も、神戸市役所2階
市民ギャラリーで開催された
1.17展に

2013.1.17 (ろにゃん)
阪神淡路大震災の日・Memorial Day of the Great Hanshin Awaji Earthquake

あの日から 18 回目の今日。
The 18th today since that day.



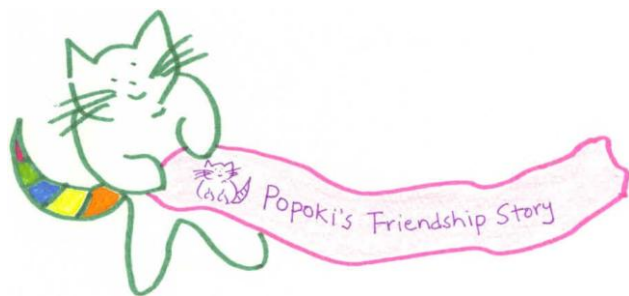
あの日を覚えていない人は、
一年分増えました。
One more year's worth of people
who don't remember that day.



一輪の花は、仲間がくると花束になる。
If one flower is joined by others, it becomes a bouquet.



一人分の記憶は、仲間がくると絵になる。語り続けよう。あの日のことを。
If one person's memory is joined by others, it becomes a picture.
Let's keep on telling our stories of that day.



～東北からのメッセージ～

みなさん、こんにちは！神戸大学大学院生の西山朗です。ろににゃんとともに、私を含めた院生数人が2012年10月に岩手県の大槌町と陸前高田に行きましたが(詳細はポーポキ通信第86号に掲載しています)、その際に現地で出会った人々へのインタビュー記事を今号から数回にわたって掲載します！インタビューは私たち院生です。それでは、まず以下のお二人です！！

1. 元持幸子さん インタビュアー: アスタ・ラナバット(日本語訳: 西山朗・谷口太郎)

過去一年半、「ポーポキ友情物語」を通してポーポキ・ピース・プロジェクトは、世界と日本の東北地方の人々をつなげるために小さな活動を展開しています。このプロジェクト(ポーポキ友情物語)は一枚の布とペンを用いて子どもと大人たちに彼ら自身を表現してもらいます;好きなもの、感情、経験、彼ら自身の物語などです。何枚かの布は世界中のいくつかの国にわたり、それはアートと言葉を通して人々が自らの怒りや絶望感、友情、希望、つながりなどを表わすためのメッセージボードのようになりました

このプロジェクトが始まって以来、これは東北の人々および世界各地の人々が、自らの理解を深めたり人々との間に共感を生み出し、自らの経験を共有したり表現するためのメディアとして「アート」と「体や感覚のもつ記憶」を使っています。このプロジェクトを促進するために、数ヶ月間の間に、多くのポーポキプロジェクトのメンバーが、隠れて見えにくい災害の影響やそれが人々に与え残した結果について学び理解することを目的に東北を訪れました。特に、東北の人々の災害についての理解や感情、安心、安全、コミュニティ、人生についてなどです。2012年10月13日から14日にかけて、ポーポキ・ピース・プロジェクトの数人のメンバーが、その土地の物理的な景観の変化および人々の観点の変化について感じ、学ぶために東北を訪れました。

訪問初日(10月13日)は主に大槌町に滞在し、数人のすばらしい人々とのミーティングを行いました。元持幸子さんの家であたたかく、すばらしい日本の家庭料理とともにそれは始まりました。元持さんは大槌町出身で、津波が起こった後、住み慣れていた仙台での仕事を辞めて故郷に帰ってきました。彼女は現在、大槌町にあるNPO団体「つどい」の立ち上げメンバーの一人として、故郷の復興・回復に全力をそそぐことを決めました。10月13日に元持さんの家で行われたインタビュー内容は以下の通りです。





元持さんの自宅から見た大槌町（写真：アスタ・ラナバット）

（インタビュー）

アスタ（以下：ア）：「大槌町で津波があったとき、どこにいらっしゃいましたか？」

元持さん（以下：元）：「大学の仕事のため三年間住んでいた、宮城県の仙台にいました。」

ア：「仙台で、地震について何を思い出しますか？」

元：「地震があったとき、私は大学で働いていました。パニックになり、恐怖を感じていました。電話がつかならず、必要な物資もないなか、学生のために避難所を作ろうとしていました。」

ア：「地震がおこったとき、すぐに何を感じましたか？」

元：「とても強い揺れを感じ、どうやって逃げて生き延びられるのか、人を助けられるのかを考えずにはいられませんでした。」

ア：「強い揺れを感じた時、何をしていましたか？」

元：「地震が起きたあとすぐに、他の人たちと一緒に大学から逃げて、地震がおさまるのを待ちました。地震が起きてから数日間避難所となった大学で救援活動をしていましたが、五日後に故郷の岩手県大槌町に戻りました。」

ア：「仙台から戻ったときの大槌町の様子はどうでしたか？」

元：「仙台で大地震を経験してから五日後に大槌町に戻った時は、自分の目を信じる事が出来ま

せんでした。まるで大戦争があった後のようでした。しかし、私の家は直接の被害は受けませんでした。津波によって流されたり被害を受けたりしなかった家々のひとつでした。そのため、私たちの家から二百～三百メートル程下に住んでいる住民に、シェルターとして家を開放しました。」

ア:「大地震から、大槌町はどの位復興したと思いますか？」

元:「私の意見として、これは人によって異なると思います。津波から一年七カ月がたちましたが、人々は未だに“苦しんで”います。特に、仕事や生活を失った中年男性は絶望やいらだちを感じ始めています。大槌町で数人自殺者もでています。一方で、難しいことでありながらも、前に進もうとしている人たちもいます。私自身は、人生において小さな事にでも精を出し、楽しめるように集中するようにし始めました。私は大槌町が復興することを願っており、そのための重要なシステムの建設のために活動しています。」

ア:「自分の人生において、仙台での地震と大槌町での津波の経験はどのようなインパクトを与えましたか？」

元:「大槌町での津波は私の人生の転換点になりました;故郷に戻る決断をしました。現在は大槌町の復興と再建のための活動をしています。仙台での生活の方が快適で楽だとは思いますが、コミュニティのメンバーと共に、新しく機能的なシステムを立ち上げるために働けることを嬉しく思っています。」

ア:「世界にむけて伝えたいメッセージはありますか？」

元:「大槌町の人々はとても強く、またコミュニティの絆の感覚を持っています。彼らは町を愛しており、また、自然や文化、コミュニティ(特に祭り)に誇りを持っています。そんな彼らとともに、平和な世界を築くことができると信じています。世界よ、私たちと一緒に！」



元持幸子さん(写真:アスタ・ラナバット)

(感想)

個人的に、東北への二日間の旅の前、そこで何が起こるのか私には見当もつきませんでした。東北の大槌町に足を踏み入れた時、どこか異国にいるような感覚を覚えました。たくさんの草木、開けた空間、私はそれらを新鮮に感じました。東北は私が知っている日本でないようでした。しかし、日が進むにつれ、私は次のことに気がつきました。私が見た大槌町は、山のようながれきや残骸が積み重ねられていることを除けば、空っぽでした。そこはかなり静寂に包まれていました。走る電車や車の音も、人の話し声も、鳥のさえずる声も、他の動物の声も、そこから欠けていました。そこでは、かき慣れない匂いがしました。甘くも嫌なわけでもなく、ただ知らない匂いでした。それにしても空気は冷気を含んでおり、私は寒さを身にしみて感じました。

大槌町を歩き、元持さん、伊藤さん、東梅さん、小林さん、植田先生、道又先生のお話を聞き、美しい景色以上のものが東北にはあるのだと気がつきました。大槌町は自分たちの文化や伝統、歴史的な遺産を誇りに思っている人たちのコミュニティです。そして、私が出会った中でも最も勇気のある人たちの家でもあります。津波によって起こされた被害で家も愛する人も失ったにも関わらず、彼らは人生やコミュニティ、そして未来を再建するための魂・希望、そして勇気を失っていませんでした。私は彼ら全員に敬意を表したいです。特に、元持さん、伊藤さん、東梅さん、小林さん、植田先生、道又先生、私はあなた方を心から尊敬しています！あなたたちの勇気や無私無欲さは素晴らしいです。みなさまに出会えたことが、東北での旅を代表するような大きな出来事で、最も心温める経験です。東北のことを考えるとき、私は、いつでもあなた方のことを考えることでしよう。

2. 伊藤陽子さん(写真家) インタビュアー:西山侑佑

みなさん、こんにちは～。ポーポキのお友達のゆうすけにゃんです。

去年の10月、僕はポーポキとポーポキのお友達のろににゃん、さとにゃん、アスタにゃん、スザンカにゃん、あきらにゃん、たろうにゃんと一緒に岩手県の大槌町と陸前高田市に行ってきました!!! その時、僕は、大槌町で伊藤陽子さんという現在、写真家としてご活躍されている方にインタビューをさせていただきました!!!

伊藤さんは、元々は写真家ではなく飲食店を経営されていました。伊藤さんは震災前にも、写真を撮るのが大好きで、多くの写真を撮られていました。しかし、その写真のすべては今回の津波によって流されてしまいました。それでも、伊藤さんは写真を撮り続けました。今では、伊藤さんの写真は本という形になって震災の様子を語ってくれています。伊藤さんは「写真での説明は出来る。」と、自らの写真と共に活躍されている、そんな素敵な方です。

では、さっそくその時のインタビューの様子を覗いてみましょう...

ゆうすけ(以下:ゆ):「津波が来た時、どこにいましたか。」

伊藤さん(以下:伊):「津波が来た時、母親の用事で30km離れた宮古市にいた。」

ゆ:「ご自宅や仕事場はどうでしたか。」

伊:「3階建ての仕事場も、家もキレイに流されてしまった。本当にキレイにながされたから、何もな

くて心残りもない。」

ゆ:「いつから写真を撮られているのですか。」

伊:「小学校6年生の時から。当時、小遣いは5円だった。その小遣いをコツコツ貯めて、500円のカメラを買った。写真を撮るのが好きで、いろいろ撮っていた。でも、現像には、お金がかかるので親に頼むしかない。でも、撮るなどとは言われなかったんだよね～。だから、続けてこれたんだよ。」

ゆ:「本当に写真を撮るのがお好きなんですね。」

伊:「そう。撮るのが好きだから、常にカメラを持っている。普通の家の人撮るように撮りたいものを撮っているだけ。津波が来た時も、3台カメラを持っていた。」

ゆ:「津波が来た時も普段通りカメラを持っていただけですか。」

伊:「そうなの。撮ろうとして撮ったものではなくて、いつも通り写真を撮っていただけ。そこに津波が入ってきただけなの。」

ゆ:「津波が来た町を見て、色に例えるならどのように感じましたか。」

伊:「津波が来るまで大槌町を色で感じたことはなかった。去年の前半は茶色、後半は灰色、今年になって緑かな。緑が出てきて、色とりどりの花が出てきた。特に、サクラのピンクは衝撃的だったね。」

ゆ:「何か伝えたいメッセージはありますか。」

伊:「好きなものはなんだかんだ続けられるもの。だから、子供は好きなことをやればいいし、続けられればいい。たとえどんなことが起こっても。」



ピッツバーグ子ども博物館のポーポキ友情物語展に伊藤さんの写真を使わせていただき、多くの方々が手にとってゆっくり見ることができました。



伊藤陽子さん (写真: アスタ・ラナバット)

～今回のインタビューを通じて～

僕は今回のインタビューを通じて、『忘れてはいけないこと』、ということを感じました。『忘れてはいけないこと』には2つの意味があると思います。1つは、今回の大震災そして、津波のこと。そしてもうひとつは、そこに住んでいた人々の思い出と感じました。僕たちが写真を見て想うことは、破壊された町、津波の脅威、自然の力などでしょう、しかし、そこに住んでいた人々はそれと共にここには何あった、ここは元々こんなだったなど、大好きな町を懐かしむ思い出としての意味もあると感じました。思い出は永遠に消えることはないでしょう、忘れない限り。そして、僕たちも僕たちにとってかけがえのない町があるように、今そこに何もなくても、彼らにとってかけがえのない町があったことを忘れてはいけないと思いました。

「伊藤陽子さん!!!とっても貴重なお話、ありがとうございました!!!」

～ポーポキとポーポキのお友達より～



ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 56

今月のポガのテーマは、新しい年で平和を考えよう！



1. いつものように、背筋を伸ばし、自分を細く見せながらちゃんと座りましょう。
2. さて、まずは自分の心の平和。ちゃんと足を組んで、瞑想しましょう。
3. 次に、自然との平和。木をイメージしてみましょう。そして、気持ちをこめて、木をハグ！
4. 最後に、相手との平和。みんなでハグしよう。手を大きく広げて・・・。
5. できた？では、「できたポーズ」をどうぞ！

お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？



次回のポ一会 2月15日 神戸YMCA 19:00~20:50 306

2013.2.2 ポーポキのミニ平和映画祭! 神戸YMCA 304. 13:00~16:00. 無料。

お茶を飲みながら映画を見て、みんなで議論しましょう。

2013.2.9-11 ポーポキ in 東北(岩手県大槌町)

2013.3.3 ポーポキ at ロータリひょうご県地区 (兵庫県神戸市ポートアホテル)

2013.3.7 (予定) てしにゃんとポーポキによるアート鑑賞(神戸ゆかりの美術館、17:30)

参加したい方はポーポキの gmail へご連絡ください。

2013.3.21 ポーポキ at 国際ロータリ RYLA 会議 (香川県余島)

ポーポキの友だちからのご案内

・2013.2.16 上映会「わすれない ふくしま」14:00~16:00 / 17:00~19:00;

神戸YMCA 三宮会館 1階チャペル; 資料代:1,000円(中学生以上); 内容:映画上映、四ノ宮監督トーク、質疑応答; 問合先:神戸YMCA 東日本大震災復興支援チーム Tel: 078-241-7204(担当:永井)

<http://shinsai.weebly.com/1/post/2012/12/216.html>

・2013.6.15-16 第9回移動労働者と連帯する全国フォーラム・神戸 2013 甲南大学

<http://popoki.cruisejapan.com>

[ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki@gmail.com)

ポーポキと一緒に平和を創り出す集会

～映像で考える平和～

2002年度から不定期に開催している「平和を創り出す集会」では、事実をできるだけ正確に知り、市民の視点から、平和を創り出すために私たちに何ができるのか、ともに考え語り合い、行動の糸口を探すひとときを持ってきました。

平和ってなに？平和ってどんな形？
映像で「平和」を表現することは可能？
一緒に「平和」を考えてみませんか？
ポーポキも参加するんだよ！



今回は、映画&トークセッションを企画しました。好きな時間帯に参加して、好きな作品を観て、お茶でも飲みながら、作品について話し合ってみよう。

時間	作品（予定）	備考
13:00-14:15	あいさつ 「それでも生きる子供たちへ」から2作 1.「タンザ」 2.「アメリカのイエスの子ら」	35分・英語音声・日本語字幕
14:30-16:00	「ACTING TOGETHER ON THE WORLD STAGE-Performance and the Creative Transformation of Conflict-」 ・演劇を通して平和を追求するパフォーマンス団体制作ドキュメンタリー。	60分・英語音声・日本語字幕

日時： 2013年2月2日（土） 午後1時～午後4時

場所： 神戸YMCA 三宮会館

参加費： 無料（募金活動にご協力願います）

申込： 電話、又は、メールで、お申し込みください。

主催： ポーポキ・ピース・プロジェクト
神戸YWCA、神戸YMCA

お問い合わせ・お申し込み

神戸YMCA国際・奉仕センター(担当:永井)

〒655-0001 神戸市中央区加納町2-7-15

TEL(078)241-7204

e-mail houshi@kobeymca.org



マイカップをわすれないでね！

ポーポキ通信のバックナンバー: <http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から」、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』 2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. "Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War." *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に9条がある」NO: 66 2012年5月12日[子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」 斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19 (伝える1・17 3・11、22面)
- K. Wada. "Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peace? Popoki, What Color is Friendship?" *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. "The Art of Healing"(Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) "The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 『「ポーポキ、平和って、なに色？」の背後にあるもの」(連載) とさぼりライフ第19号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑮(パレスチナについて)『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 'Heart Lines' 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- "Human Rights, Popoki and Bare Life." *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色? ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第2号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色?』」「私のいち押し」奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて～人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第35号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色? ポーポキのピース・ブック2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第2弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色?」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色?」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか?」RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組をクリック。番組CHの6CHをクリック。
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」Kumamoto YMCA News 10 Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全30条 イラストで表現 地元ゆかり6名がパネル制作」2008.10.8. 10面
- 中国新聞「核廃絶への視点」2008. 7. 27 (核抑止論について・・・。3時間!?!にわたる取材で一生懸命にポーポキのことを話したのに・・・。





私にとってのポーポキ

西山朗

私がポーポキに出会ってから10カ月が経とうとしています。それは、私が故郷を離れて関西で一人暮らしを始めた期間と同じです。この期間は、新しい仲間に出会えた喜び、関西の文化に対する驚き、そして身近で大切な人に対する感謝の気持ちで満ち溢れていて、ポーポキは特に最後の点について教えてくれたと思います。

私は今大学院で「平和学」という学問を勉強していますが、米軍基地がある町で生まれ育った私が「平和」について割と小さい時から考えるようになったのは当然のことだと思います。大学時代も「平和」を追求するために様々なことを学んでいましたが、一度として誰もが納得する「平和」の定義にたどり着いたことはありませんでした。おそらく、「平和」の定義は人それぞれであり、だからこそそのような世界を創造することは難しいのだと思います。

私にとっての「平和」は様々なことを意味しますが、故郷を離れてから強く思うようになった「平和」は、「身近な人に感謝をし、それを表現すること」です。親元を離れて生活することで、より一層家族の大切さを身にしみて感じるようになった今日この頃、その気持ちを伝えることでお互いが幸せな気持ちになることを知りました。表現方法は言葉でも何でも良いと思います。絵を描くなどのポーポキの手法を使うことが出来るかもしれません。そうすることによって、自分の身の回りから「平和」の芽を咲かせ、今後もポーポキと一緒に「平和」への旅路を歩んでいきたいなと思います。



故郷の景色



さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011年に起こった東日本大震災をきっかけに活動しており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を2012年1月に発行します。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の蘭をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.comへお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)

<http://popoki.cruisejapan.com>



郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!!